

テクノブリッジセミナーin 福井 開催報告

（公財）ふくい産業支援センターでは（国研）産業技術総合研究所福井サイトと共催で、産総研テクノブリッジセミナーを開催しました。

福井県は、繊維産業や眼鏡産業やそこから発展した各種産業に強みを持っています。また、独特の気候に根差した農林水産業の6次産業化も進んでいます。これらの産業のさらなる発展には、製品の差別化が不可欠です。そのような高付加価値の製品を開発するにあたっては、単に試作品の性能や機能を試験するだけでなく、なぜそれが要求される性能や機能を満たすのか／満たさないのかを明らかにするための「評価」が重要です。

本セミナーでは、産総研が保有する先進的な評価技術から、特に繊維処理剤、眼鏡部材（モダン）、食品、化粧品などの開発に有効と思われるものを幾つか選んでご紹介しました。

日 時：平成31年2月21日 13:30～17:00
場 所：福井県工業技術センター 研修棟1階 C101室ほか
参加者数：54名（企業、県関係者含む）
主 催：（国研）産業技術総合研究所
共 催：福井県、（公財）ふくい産業支援センター
後 援：ふくいオープンイノベーション推進機構



内 容：

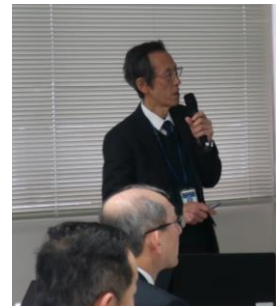
- 電子顕微鏡のクライオ技法による液中や含液の材料の構造評価
産総研 バイオメディカル研究部門（関西センター） 川崎 一則 氏
- 高分子材料評価 ー劣化挙動解析についてー
産総研 機能化学研究部門（つくばセンター） 大石 晃広 氏
- 食品関連分野における分析評価技術
産総研 地域連携推進部（つくばセンター） 小高 正人 氏



川崎 一則 氏



大石 晃広 氏



小高 正人 氏

○セミナー内容

産総研 バイオメディカル研究部門 川崎 一則氏からは、液中に分散化した微粒子・微小繊維や、液体を含有する複合材料は、通常の電子顕微鏡法では扱いが難しいという問題がありました。フリーズ・レプリカ TEM やクライオ SEM などのクライオ技法を用いて、これらの材料の構造を見えるようにして、評価に用いた事例が紹介されました。

産総研 機能化学研究部門 大石 晃広氏からは、産総研機能化学研究部門では最先端の構造解析手法を駆使して、高分子材料の機能や信頼性を化学構造に基づいて評価する技術を開発しています。今回は劣化挙動解析について連携事例とともに紹介が行われました。

産総研 地域連携推進部 小高 正人氏からは、生活習慣病、睡眠、免疫活性等に関わる食品素材等の機能評価技術、これらの状態観察及び品質評価のための高感度イメージング技術と高精度分析技術、製造プロセスにおけるウイルス等の定量技術や微生物付着による表面汚れの評価技術が紹介されました。

お問い合わせ先：（公財）ふくい産業支援センター オープンイノベーション推進部 プロジェクト推進室 吉田